2027年３月期　第２四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年11月12日

上場会社名　　テルマー湯ホールディングス株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　3521　　ＵＲＬ　https://thermae-yu-hd.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）鈴木隆太
問合せ先責任者　（役職名）経理部　部長　　（氏名）野村嘉之　　ＴＥＬ　03-6418-4391

半期報告書提出予定日　　2026年11月12日　　配当支払開始予定日　－
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年３月期第２四半期（中間期）の連結業績（2026年４月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年３月期中間期	1,495	21.5	133	3.6	136	5.9	△113	－
2026年３月期中間期	1,231	28.2	128	△4.9	128	△3.1	57	△29.4

（注）包括利益　2027年３月期中間期　△113百万円（－%）　2026年３月期中間期　57百万円（△29.4%）

	１株当たり中間純利益	潜在株式調整後１株当たり中間純利益
	円 銭	円 銭
2027年３月期中間期	△4.28	－
2026年３月期中間期	2.18	2.16

（注）潜在株式調整後１株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの１株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年３月期中間期	5,637	4,731	83.4
2026年３月期	6,000	4,967	82.5

（参考）自己資本　2027年３月期中間期　4,701百万円　2026年３月期　4,946百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年３月期	－	－	－	5.00	5.00
2027年３月期	－	－			
2027年３月期（予想）			－	5.00	5.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

３．2027年３月期の連結業績予想（2026年４月１日～2027年３月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,060	13.6	320	4.4	320	4.1	△50	－	△1.89

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※　注記事項

（１）当中間期における連結範囲の重要な変更：無
　　新規　－社　（社名）－、除外　－社　（社名）－

（２）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
　①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　：無
　②　①以外の会計方針の変更　：無
　③　会計上の見積りの変更　：無
　④　修正再表示　：無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年３月期中間期	26,466,366株	2026年３月期	26,466,366株
②　期末自己株式数	2027年３月期中間期	18,033株	2026年３月期	17,333株
③　期中平均株式数（中間期）	2027年３月期中間期	26,448,652株	2026年３月期中間期	26,451,145株

※　第２四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．経営成績等の概況 …… 2
（１）当中間期の経営成績の概況 …… 2
（２）当中間期の財政状態の概況 …… 3
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．中間連結財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）中間連結貸借対照表 …… 4
（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 …… 6
（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書 …… 8
（４）中間連結財務諸表に関する注記事項 …… 9
（セグメント情報等の注記） …… 9
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 11
（継続企業の前提に関する注記） …… 11

１．経営成績等の概況

（１）当中間期の経営成績の概況

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、サービス需要やインバウンド需要は引続き好調だったことから、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、その一方で円安による輸入物価の上昇や中東情勢の緊迫化による資源価格の高騰など、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループの主力である温浴事業では、東京都新宿区歌舞伎町にて事業展開する温浴施設「テルマー湯　新宿店」におきまして、当中間連結会計期間の入館者数は前年同期と比べ2.8%増加し、15万７千７百人となりました。集客活動といたしましては、地下２階の「テルマー湯ＢＡＲ」をリニューアルし、営業開始時間も従来の11時30分オープンから８時オープンに早めて５月１日に「ＣＡＦＥ＆ＢＡＲネコリタ」として新たにオープンいたしました。従来、食事・アルコール類は11時30分からしかご提供できませんでしたが、営業開始時間を早めたことにより、８時からモーニングセットなどの軽食・アルコール類もご提供できるようになり、大変ご好評いただいております。また、８月８日より「ランニングステーションサービス」を開始いたしました。これは当施設でランニングウェアにお着替えになり荷物を預けて近郊のお好きなコースでご自由にランニングをお楽しみいただいた後、当施設のお風呂・サウナでリカバリーしていただけるというもので、入館料のみでご利用いただけます。季節ごとに取組んでいるイベントといたしましては、６月３日より「夏のイタリアフェア」を、９月１日より「台湾フェア」を開催し、期間限定の日替わり湯やレストランでの限定メニューなど多数企画いたしております。

東京都港区西麻布で事業展開する「テルマー湯　西麻布店」におきましては、当中間連結会計期間の入館者数は前年同期と比べ4.3%減少し、４万２千５百人となりました。西麻布店では有名アウフギーサーを多数ゲストに迎え、アウフグースに特に注力して他店との差別化を図っております。集客活動といたしましては、５月29日にウェルネスイベントとして「Ｓｐｅｃｉａｌ　Ｓｔｏｉｃ　Ｄａｙ」を開催いたしました。筋肉トレーニングによる「動」と、温浴・サウナによる「静」を掛け合わせることで相乗効果を狙ったウェルネス企画であり、有名アウフギーサーに加えゲストトレーナーとして湯浅 陸さんをお迎えし、館内ジムにてご指導をいただきました。さらに６月からは毎週金曜日は「Ｓｔｏｉｃ　Ｆｒｉｄａｙ」としてプロテインドリンクやジム飯をお手頃価格にてご提供いたしております。また、９月25日からは新宿店と同様に西麻布店でも上記の「ランニングステーションサービス」を開始しております。

その結果、温浴事業の売上高は前年同中間期に比べ3.8%増加し995,172千円、営業利益は前年同中間期に比べ16.3%増加し245,682千円となりました。

不動産事業では、東京都港区西麻布に所有する「エコナック西麻布ビル」の住居部分の賃貸収益につきまして、継続して安定した収入を得ることができましたが、退去部屋を新たに賃貸せず自社グループでの利用を予定していることから売上高、営業利益の減少要因となりました。

その結果、不動産事業の売上高は前年同中間期に比べ21.5%減少し18,609千円、営業損失は578千円（前年同中間期は営業利益8,840千円）となりました。

食品事業では、夏向けの麺類の具材などが比較的好調に推移いたしました。しかしながら、「愛犬と一緒に安心して味わえる」をテーマに、自社ブランドとして立ち上げた「Ｃｈｉｌｌわんシリーズ」などの製造をするため、長野県に製造設備を新設し本格的に稼働いたしましたが、当初想定していた受注量に届いておらず販売戦略の見直しが喫緊の課題となっております。また、上記の製造設備にかかる初期投資費用が嵩んだことなどにより利益の減少要因となりました。

その結果、食品事業の売上高は481,908千円、営業損失は8,331千円となりました。なお、食品事業は2025年７月から連結の範囲に含めており、前年同中間期との比較情報につきましては、比較対象期間が異なるため記載しておりません。

以上の結果、当社グループの当中間連結会計期間の経営成績につきましては、売上高は前年同中間期に比べ21.5%増加し1,495,689千円となりました。営業利益は前年同中間期に比べ3.6%増加し133,089千円、経常利益は前年同中間期に比べ5.9%増加し136,353千円、親会社株主に帰属する中間純損失は113,277千円（前年同中間期は親会社株主に帰属する中間純利益57,644千円）となりました。

なお、食品事業におきまして2025年７月に青柳食品販売株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めておりましたが、当初想定していた事業計画からの乖離が生じ、今後の事業計画を見直した結果、事業用資産並びに株式取得時に発生したのれんの減損損失を185,880千円計上いたしました。そのため親会社株主に帰属する中間純利益が前年同中間期に比べ大幅に減少いたしております。

（２）当中間期の財政状態の概況

①　資産、負債及び純資産の状況

当中間連結会計期間末の総資産は、のれんの減少などにより前連結会計年度末と比較して362,297千円減少し、5,637,920千円となりました。

負債は、長期借入金の減少などにより前連結会計年度末と比較して125,573千円減少し、906,881千円となりました。

純資産は、利益剰余金の減少などにより前連結会計年度末と比較して236,723千円減少し、4,731,038千円となりました。

②　キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末に比べ、35,903千円減少し、1,256,280千円となりました。

当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果獲得した資金は、206,642千円（前年同中間期は139,838千円の獲得）となりました。これは、主に税金等調整前中間純損失の計上が50,101千円あったものの、減損損失の計上が185,880千円、減価償却費の計上が150,398千円あったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、12,176千円（前年同中間期は259,127千円の使用）となりました。これは、主に有形固定資産の取得による支出などであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、230,369千円（前年同中間期は267,003千円の使用）となりました。これは、主に長期借入金の返済による支出や配当金の支払額などであります。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2026年６月２日の「2026年３月期　決算短信の一部訂正について」で公表いたしました通期の連結業績予想から変更しております。詳細につきましては、本日公表の「特別損失の計上（のれんの減損損失）及び通期連結業績予想の修正並びに関係会社株式の減損処理による特別損失（個別決算）の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

２．中間連結財務諸表及び主な注記

（１）中間連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,300,584	1,268,280
売掛金	172,225	188,055
商品	27,436	30,947
原材料及び貯蔵品	10,139	11,949
その他	15,775	14,417
貸倒引当金	△303	△313
流動資産合計	1,525,857	1,513,336
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	2,083,075	1,946,795
機械装置及び運搬具（純額）	42,432	30,443
工具、器具及び備品（純額）	55,260	47,947
土地	1,834,794	1,834,794
有形固定資産合計	4,015,562	3,859,980
無形固定資産		
借地権	83,445	83,445
ソフトウエア	3,705	2,974
電話加入権	1,528	1,528
のれん	187,037	－
無形固定資産合計	275,717	87,948
投資その他の資産		
投資有価証券	600	600
繰延税金資産	14,373	9,716
その他	168,106	166,338
投資その他の資産合計	183,080	176,654
固定資産合計	4,474,360	4,124,583
資産合計	6,000,217	5,637,920

（単位：千円）

	前連結会計年度 （2026年３月31日）	当中間連結会計期間 （2026年９月30日）
負債の部		
流動負債		
買掛金	123,262	115,861
１年内返済予定の長期借入金	159,932	103,232
未払金	53,261	57,303
未払法人税等	75,371	62,300
契約負債	19,179	4,573
前受金	6,544	6,022
賞与引当金	7,024	7,486
株主優待引当金	4,415	3,432
その他	52,151	60,070
流動負債合計	501,142	420,282
固定負債		
長期借入金	245,340	202,674
繰延税金負債	28,921	25,735
再評価に係る繰延税金負債	10,296	10,296
資産除去債務	243,360	244,778
長期預り金	3,393	3,113
固定負債合計	531,312	486,598
負債合計	1,032,454	906,881
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	4,235,309	4,235,309
利益剰余金	596,374	350,851
自己株式	△3,548	△3,656
株主資本合計	4,928,134	4,682,504
その他の包括利益累計額		
土地再評価差額金	18,765	18,765
その他の包括利益累計額合計	18,765	18,765
新株予約権	20,861	29,768
純資産合計	4,967,762	4,731,038
負債純資産合計	6,000,217	5,637,920

（２）中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

（中間連結損益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
売上高	1,231,087	1,495,689
売上原価	975,959	1,189,748
売上総利益	255,127	305,940
販売費及び一般管理費	126,695	172,850
営業利益	128,432	133,089
営業外収益		
受取利息	1,350	2,012
固定資産賃貸料	384	384
受取手数料	661	1,233
受取保険金	342	－
受取家賃	707	318
受取補償金	295	662
その他	30	805
営業外収益合計	3,771	5,416
営業外費用		
支払利息	3,474	2,084
その他	11	68
営業外費用合計	3,485	2,153
経常利益	128,718	136,353
特別利益		
債務免除益	7,280	－
特別利益合計	7,280	－
特別損失		
減損損失	－	185,880
固定資産売却損	－	210
固定資産除却損	331	364
役員退職慰労金	25,000	－
特別損失合計	25,331	186,454
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失（△）	110,666	△50,101
法人税、住民税及び事業税	60,365	61,704
法人税等調整額	△7,343	1,471
法人税等合計	53,021	63,175
中間純利益又は中間純損失（△）	57,644	△113,277
親会社株主に帰属する中間純利益又は親会社株主に帰属する中間純損失（△）	57,644	△113,277

（中間連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
中間純利益又は中間純損失（△）	57,644	△113,277
中間包括利益	57,644	△113,277
（内訳）		
親会社株主に係る中間包括利益	57,644	△113,277
非支配株主に係る中間包括利益	－	－

（３）中間連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：千円）

	前中間連結会計期間 （自　2025年４月１日 至　2025年９月30日）	当中間連結会計期間 （自　2026年４月１日 至　2026年９月30日）
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益又は税金等調整前中間純損失（△）	110,666	△50,101
減価償却費	149,975	150,398
のれん償却額	6,840	13,681
株式報酬費用	5,713	8,906
減損損失	－	185,880
有形固定資産除却損	331	364
有形固定資産売却損益（△は益）	－	210
貸倒引当金の増減額（△は減少）	△69	9
賞与引当金の増減額（△は減少）	△1,271	461
株主優待引当金の増減額（△は減少）	△1,133	△982
受取利息及び受取配当金	△1,350	△2,012
支払利息	3,474	2,084
売上債権の増減額（△は増加）	△603	△15,829
棚卸資産の増減額（△は増加）	3,470	△5,321
仕入債務の増減額（△は減少）	8,910	△7,401
未払消費税等の増減額（△は減少）	△38,302	6,890
長期預り金の増減額（△は減少）	105	△280
その他の資産の増減額（△は増加）	△16,812	2,156
その他の負債の増減額（△は減少）	△14,352	△7,729
小計	215,591	281,387
利息及び配当金の受取額	1,350	2,012
利息の支払額	△3,380	△1,981
法人税等の支払額	△73,723	△74,776
営業活動によるキャッシュ・フロー	139,838	206,642
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△66,011	△8,056
無形固定資産の取得による支出	－	△1,500
定期預金の預入による支出	△3,600	△3,600
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△189,516	－
その他	－	980
投資活動によるキャッシュ・フロー	△259,127	△12,176
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△136,032	△99,366
配当金の支払額	△130,791	△130,896
自己株式の取得による支出	△179	△107
財務活動によるキャッシュ・フロー	△267,003	△230,369
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	△386,292	△35,903
現金及び現金同等物の期首残高	1,501,203	1,292,184
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,114,911	1,256,280

（４）中間連結財務諸表に関する注記事項

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ　前中間連結会計期間（自　2025年４月１日　至　2025年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	温浴	不動産	食品	合計
売上高				
温浴　施設利用料等	675,837	－	－	675,837
温浴　その他のサービス等（注１）	282,206	－	－	282,206
不動産賃貸　管理サービス等	－	1,337	－	1,337
食品販売	－	－	248,997	248,997
顧客との契約から生じる収益	958,044	1,337	248,997	1,208,380
その他の収益（注２）	331	22,375	－	22,706
外部顧客への売上高	958,375	23,713	248,997	1,231,087
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	1,356	－	1,356
計	958,375	25,069	248,997	1,232,443
セグメント利益	211,228	8,840	1,782	221,850

（注１）温浴　その他のサービス等は、飲食、マッサージ等による売上高になります。

（注２）その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸収入等になります。

２．報告セグメントごとの資産に関する情報

当中間連結会計期間において、青柳食品販売株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。

これにより、前連結会計年度の末日に比べ、当中間連結会計期間の報告セグメントの資産の金額は、「食品」事業において378,244千円増加しております。

３．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	221,850
全社費用（注）	△93,418
中間連結損益計算書の営業利益	128,432

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

４．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「食品」事業において、青柳食品販売株式会社の全株式を取得し、新たに連結の範囲に含めております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当中間連結会計期間においては200,719千円であります。

Ⅱ　当中間連結会計期間（自　2026年４月１日　至　2026年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	温浴	不動産	食品	合計
売上高				
温浴　施設利用料等	703,299	－	－	703,299
温浴　その他のサービス等（注１）	291,689	－	－	291,689
不動産賃貸　管理サービス等	－	617	－	617
食品販売	－	－	481,908	481,908
顧客との契約から生じる収益	994,988	617	481,908	1,477,514
その他の収益（注２）	183	17,991	－	18,174
外部顧客への売上高	995,172	18,609	481,908	1,495,689
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	46	46
計	995,172	18,609	481,954	1,495,736
セグメント利益又は損失（△）	245,682	△578	△8,331	236,773

（注１）温浴　その他のサービス等は、飲食、マッサージ等による売上高になります。

（注２）その他の収益は、企業会計基準第13号「リース取引に関する会計基準」に基づく賃貸収入等になります。

２．報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と中間連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：千円）

利益	金額
報告セグメント計	236,773
全社費用（注）	△103,683
中間連結損益計算書の営業利益	133,089

（注）全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

３．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

「食品」事業において、有形固定資産及び無形固定資産の減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当中間連結会計期間においては12,525千円であります。

（のれんの金額の重要な変動）

「食品」事業においてのれんの減損損失を計上したため、のれんの金額が減少しております。なお、当該事象によるのれんの減少額は、当中間連結会計期間においては173,355千円であります。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。